

GREEN THINKING!

脱炭素社会を目指すカーボンニュートラルに向けて

「グリーン」が象徴するもの

それは自然 それは平和 それは癒し それは知性

そしてそれは環境保護

脱炭素社会の実現を目指すために大切なのは「グリーン」な思考

一人ひとりの考えと行動がカーボンニュートラルにつながり

それはやがて持続可能な未来を築きます

私たちができることを考える **GREEN THINKING!**

地球のために、そしてそこに暮らすすべての人のために

GREEN THINKING! について

近年、猛暑や豪雨災害などの異常気象が日本各地を襲っています。気象庁によると、2024年の夏(6～8月)の平均気温は、平年を示す基準値を1.76℃上回り、1898年の統計開始以降最高だった昨年に並び、2年連続で最も暑い夏になりました。また、局地的な豪雨の発生も増加傾向にあります。これらの異常気象の原因である地球温暖化は、二酸化炭素等の温室効果ガスがもたらします。安心・安全な暮らしや未来の地球環境のために、私たちには何ができるのでしょうか。下野新聞社では、「GREEN THINKING! 脱炭素社会を目指すカーボンニュートラルに向けて」を通して、県民の皆さんと未来につながる「今できること」を考えていきます。

企画・制作／下野新聞社ビジネス局

INTERVIEW

“明るい未来へCN目指そう”

今年の夏、本当に暑かったですね。この100年で、世界平均では1度以上、栃木県は2度以上、平均気温が上がりました。気候変動です。平均気温の上昇は、人間だけでなく生態系全体に深刻な影響を及ぼしています。さらに資源競争をめぐり、紛争も引き起こされています。そこで2015年にパリ協定が採択されました。産業革命前からの気温上昇を1.5度に抑えるという目標を掲げたのです。日本政府は20年、50年までに二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル(CN)を目指すことを宣言しました。

被害は弱者を直撃

「脱炭素とCNは何か違うの？」よく聞かれるので簡単に説明しましょう。脱炭素は、二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの排出を根本的に削減し、ゼロを目指すことです。CNは、温室効果ガスの排出量から、植林や炭素回収技術による吸収量を差し引いて、実質的にゼロにすることです。ニュアンスとしては、CNの方が、排出削減とともに吸収もより意識しているといえます。

なぜ、今CNなのでしょう。気温の上昇には温室効果ガスが影響しており、このガスは人間が経済活動等の中で排出しています。

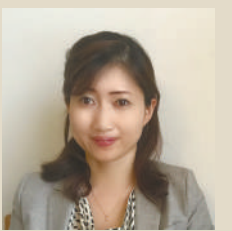
猛暑や豪雨のリスクが高まることが予想され、災害、健康、経済活動などさまざまな影響が出ます。影響・被害の度合いは不公平で、地理的・社会的な弱者に偏る傾向があります。さらに世代を超えて、若い人、未来を生きる人たちが、より被害を受けます。ですから、今真剣に取り組むべき問題なのです。

全市町がゼロ表明

栃木県は2023年に県カーボンニュートラル実現条例を施行しました。県内の全市町も2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明しています。那須塩原市、宇都宮市、芳賀町、日光市は、環境省の脱炭素先行地域にも選ばれました。

CNの仕組みは、暑くても冷房の温度を下げないといった「がん大会」ではありません。エネルギー効率を改善する、再エネを広げる、緑化を推進する、などさまざまな取組みを組み合わせ、社会全体の仕組みを変革していき、皆に幸せな社会を目指すことが主眼です。

そこで、行政、企業、個人が単体で行うだけでなく、コラボレーションを通じて、画期的な取り組み(イノベーション)を進めることが重要と言われています。県内にも先進的な取り組みをしたり、取組みを進めたいと考える企業や団体、人材がいます。協働の良い事例が広がり、栃木がカーボンニュートラルな明るい未来へ向かっていくことを期待しています。



宇都宮国際学部
高橋 若菜 教授
(たかはし・わかな)

地球環境戦略研究機関 研究員を経て2003年に宇都宮大学 着任、2020年より現職。環境政治学者。研究テーマは地域脱炭素の国際比較。NPO法人うつのみや環境行動フォーラム 理事長。中央環境審議会循環型社会部会委員 ほか多数。

「とちぎカーボンニュートラル15アクション県民運動」について



とちぎカーボンニュートラル
実現リーダー ニュートラくん

栃木県では、2050年カーボンニュートラル実現に向けて「とちぎカーボンニュートラル15(いちご)アクション県民運動」を展開しています。

この運動では、県民の皆さんに取り組んでいただきたい15の脱炭素行動を、栃木の名産品である「いちご」になぞらえて「15(いちご)アクション」とし、行動のメリット等をわかりやすく情報発信しています。

ぜひ、取り組みやすいことからチャレンジしてみましょう。

(協力：栃木県環境森林部気候変動対策課)



私たちは **GREEN THINKING!** を応援しています。

とちぎの未来へ、あなたとともに。

栃木トヨタ



藤井産業株式会社



NTT東日本



株式会社 エネ創

FOOD OASIS
OTANITOHSEN
株式会社トーセン

アーバン・スタッフ

宇都宮東武ホテル
クラウン

宇都宮ライトパワー株式会社



笠原産業株式会社

KANEXO
Kaneko Medix, Inc.
金子メディックス株式会社

有限会社 関東実行センター



株式会社 菊地組



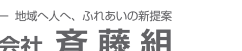
日神工業株式会社



日豊工業株式会社



庭野建設

pal*system
生協パルシステム茨城 栃木bico
株式会社 美工電気藤倉化成株式会社
FUJIKURA KASEI CO., LTD.DAIKO
有限会社 大幸製作所

Daiwa House®



中央電機通信



東京鉄鋼株式会社

東京鉄鋼株式会社
生産本部総合加工センターとちぎ「こーぷ」
「ともに」の力で、笑顔の明日を

株式会社 中川染工場



那須土木株式会社

七浦建設株式会社
nanaura construction co., ltd

日神工業株式会社



日豊工業株式会社



庭野建設

pal*system
生協パルシステム茨城 栃木bico
株式会社 美工電気藤倉化成株式会社
FUJIKURA KASEI CO., LTD.DAIKO
有限会社 大幸製作所

Daiwa House®

MASUKEN

株式会社
BP 水環境プランニング

三井住友信託銀行

UACJ
小山製作所UACJ
鋳鍛製作所

LIXIL

連合栃木
日本労働組合総連合会栃木県連合会

和田工業株式会社

※順不同